

## 発刊にあたって

豊田市矢作川研究所 所長  
松武 義聰

皆様方には、日頃から豊田市矢作川研究所に対して、ご意見やご指導、またある時には一緒になって調査に参加していただくなど多大なるご支援を賜り、誌面をお借りして御礼申し上げます。お陰様で年報の発行も7回目を数えるに至り、この間、生物や民俗など多方面にわたり調査研究を行ってきました。

さて、矢作川学校が開校し、皆様方の中からその道の達人に講師をお願いしました。小・中学校を対象に自然の営み、育てていくことの大切さ、そして魚の捕り方やおいしい食べ方など実技を交えながらの指導をしていただきました。この学習体験がこれからの人生に生かされてくるものと思っております。

次に、びっくりするような記事が新聞に掲載されました。2000年度国土交通省河川空間利用実態調査の中で、全国の主な川のにぎわいランキングが発表されました。1 km 当たりの年間利用者数を表したもので、一番が多摩川で約33万人、そして荒川、相模川と続き、4番目がなんと矢作川となっており、10万人強でした。予想外のランクだと思っております。利用の内容は散策、スポーツ、水遊び、釣りの順でした。すぐ後に淀川が迫っております。昔を知る人は、水質の悪化、流量の減少を知っております。矢作川は上位ランクの川と比べて豊かな森林があります。利用する人たちの増加を目指して、より良い流域の環境をつくっていきたいと思っております。当矢作川研究所では、流域の水源林調査をはじめ、生物、民俗の調査研究を行っており、なかにはほぼ調査が完了している項目もあります。年報や資料を公表することによって、矢作川流域の環境向上に大きく貢献できるものと思っております。また、これからは行政が企画、計画などの立案をする場合に環境に関する事項について、研究所と協議をしていただければ、より一層良いものが樹立されるのではないのでしょうか。その意味をも含めて、この年報を多くの方に活用していただき、自然環境保全に役立つことを期待しております。